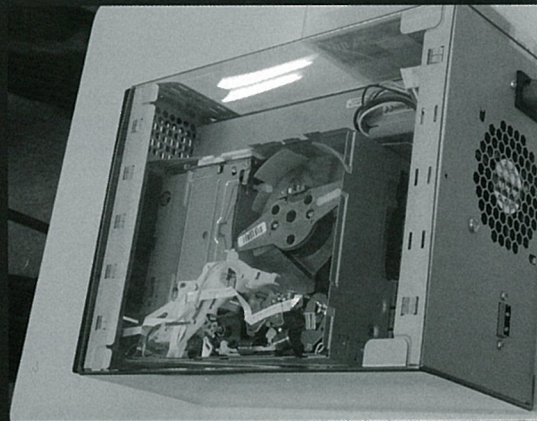


徹底研究

映像アーカイブメディア の新星

「LTO-5」 を学ぶ



LTOデッキの構造は実にシンプル

ファイルベース時代におけるデジタルアーカイブメディアとして、瞬く間に本命へのしあがってきた感のある「LTO-5」(Linear Tape Open 第5世代)。デジタルテープとして金融などのデータ保管メディアとして信頼され、高く評価されてきた。このメディアを、膨大な量の映像データの扱いに頭を悩ます放送業界がアーカイブに採用する動きが目立ってきた。

「LTO-5」は ここがスゴイ!

放送局が抱える“2016年問題” 再生できなくなる!

放送局はこれまで放送してきた番組やニュース映像を保存してきた。初期はフィルムで、その後は1インチCフォーマットVTRテープとなり、D-2VTRテープへと変遷してきた。その保存量は、民放として一番古い歴史を持つ日本テレビで、約14.3万時間

相当、D-2テープの本数では約13.5万本にもなる。

アナログ放送時に使用された主力 VTR の D-2VTR。1988年から販売が始まり、2003年に製造が終了し、2016年3月にはメーカー保守が終了する。この保守終了で D-2テープの再生ができなくなる事態に陥る。これが放送局“2016年問題”である。

LTOとは何?!

2000年に
HP社、IBM社、
Seagate社(現Quantum社)
が規格化

業界標準オープンフォーマットで、ポイントは「オープン」性にある。特定のベンダーにテープやプレーヤーソフトがコントロールされないのである。

第1世代ドライブの出荷から現在は第5世代となっており、「LTO-5」と表記される。アーカイブの媒体マーケットシェアをみると、2009年で LTO が59%であったが、翌2010年には70%に増加し、LTOへのシフトが目立つ。